

三位一体の主日

今日、私たちはキリスト教信仰の最大の神秘の一つである三位一体を祝います。このお祝いは、父と子と聖霊が共に働いていることを思い出させてくれます。しかし、三人は決して分離しているわけではなく、それぞれが独立した神である。三つの神格の間には、本質的にも関係的にも一致しています。

第一朗読でモーセは、神の働きのすばらしさと神秘性を私たちに思い出させてくれます。つまり、救いという素晴らしく神秘的な仕事を成し遂げるには、愛に満ちた神秘的な神が必要だということです。だからこそ、神の戒めにただ従うことで、神への信仰を強めることを勧めているのです。

第二朗読では、三位一体についての体系的な教えを提供することなく、パウロは三人の神をその具体的な形と行動で提示しています。「聖霊に導かれて、私たちは神の子となり、キリストとともに相続人となるのです」。私たちが神をアッバ・ファザーと呼ぶことができるのは、父と子の両方から出ている同じ霊のおかげなのです。

福音書では、キリスト自身が三つの神格の謎を私たちに明らかにしました。彼はこのことを、「行って、すべての国の人々を弟子にし、父と子と聖霊の名によって彼らに洗礼を授けなさい」という命令とともに明らかにしました。これが三位一体の式です。ですから、三位一体の名の下に捧げられた真摯な祈りは、卓越した証しとなります。

今日、教会は私たちに、三人の神は恵みの行動において分かれていないことを思い出させてくれます。今日、教会は私たちに、三人の神は恵みの行動において分裂することなく、共に働き、共に歩むことを思い起こさせてくれます。彼らは同じ使命を持っています、それは世の救いです。父は世をあがなうために御子をお遣わしになりました（ヨハネの福音書 1 章 1～3 節）。そして、父と子は、私たちの助言者、弁護者として聖霊を送ってくださいました（法 1、8、2）。いずれも、特定の期間や時間を絶対的に支配しているわけではありません。それは、3つの異なる人格であるにもかかわらず、その本質は一つだからです。彼らは永遠に一つであり、結合しているのです。

ですから、今日、私たちが祝っているのは、私たちの結束のモデルなのです。私たちは、三位一体から多くのことを学ばなければなりません。最も重要なことは、三位一体のように、私たちも神の一つの家族として共に生き、共に働くことができるということです。それは、私たちが神の同じ像を持ち、私たちがその印を持つ同じ神の霊によって洗礼を受けたからです（エペソ 4、30）。ですから、私たちの個性や違いにもかかわらず、一致することは可能であり、基本的な選択肢なのです。

ウィル神父